

## 平成 26 年度第 1 回郷土文化館協議会 概要

1. 日時 平成 26 年 10 月 27 日（水） 午後 2 時～4 時
2. 会場 小田原市郷土文化館 会議室
3. 出席者
  - (1) 郷土文化館協議会委員  
一寸木委員長、奥野副委員長、明石委員、渋谷委員、鳥居委員、中村委員  
柳川委員
  - (2) 市事務局側  
栢沼教育長、諸星文化部長、安藤文化部副部長、友部生涯学習課長、岡郷土文化館  
係長、茂木主任、中村主事、大貫主事

### 4. 会議の概要

新任委員への委嘱状交付、教育長挨拶、各委員に続き、議事に入った。  
議事の進行は一寸木委員長が行った。

#### (1) 議題 1「平成 25 年度 郷土文化館事業報告」

このことについて、まず会議資料に従って事務局から概要を報告した。報告後、次のよう  
な討議が行われた。

##### ① 平成 25 年度郷土文化館入館者について

委員より、団体入館者数は子どもと大人で分ける必要があるとの意見が出された。

これについては、事務局より、集計しているため、資料の出し方を今後工夫すると回答し  
た。

##### ② 学校利用について

また、委員から、子どもの利用について学校の利用に関して、プランを作り校外学習と絡  
めることができるのではとの意見があった。

また、小学校 3～5 年生で、地元の産業を学んでおり、小田原であれば、やはり蒲鉾、み  
かん、梅干しなどである。かまぼこ通りを見学し、小田原城でお弁当というコースになる。  
現状ではコースに入っていないが、そうしたコースに組み込める可能性があるとの意見が  
あった。

また、委員より指導要領の変更により、学校側では郷土文化館を利用する流れになってい  
るのか。また、郷土文化館では指導要領の変更について対応する動きはしているか質問が出  
された。

これに関して、委員より、そのような動きは確かにあるが、移動や入館料の問題がある。  
学校に学芸員が作品を持って行き話をするのもうまいかないところがあったとの指摘が  
あった。

また、委員より他館で指導要領に関係する展示資料のリストの作成について意見があっ

た。

また、委員より、学校側の現状、移動時間や担当者の問題が指摘された。

これについて事務局より、学校利用数が団体利用数の 7 割であること、現在の社会科関係の先生方へ郷土文化館、松永記念館、板橋地区についてのアピールの現状、今後の展開について説明があった。

## (2) 議題 2「平成 26 年度郷土文化館事業について」

このことについて、まず事務局から会議資料に従って概要を報告した。報告後、次のような討議が行われた。

### ① 常設展示について

委員から、自然科学室の閉室はいつまでか質問があった。

これについて事務局から、昆虫の資料を一時お預かりしており、閉室はそのためである。併せて展示替えを考えており、今年内には復旧予定と説明があった。

また、委員から、今の常設展は小田原の歴史や民俗の全体像、今ある資料がどういう位置づけにあるか、展示のストーリーがわからないとの指摘があった。

また、委員から資料には特別展、企画展しか記載されていないが、常設展にももう少し力を入れたほうがよい。展示は大中小の柱立て、階層性を踏まえて展示しないと、ストーリーが見えにくい。また、自然系の展示でも、天然記念物のパネルを、昔作ったモノクロの物をそのまま使っている。常設展を見直す必要があると指摘があった。

これについて、事務局から、現状、手が回らないのが正直なところであると説明した。

この説明を受けて、委員より、計画的に展示替えを行わないのではなく、人手の問題かと質問が出た。

これについて、事務局から、施設改修に伴う展示替えは難しいが、手が付けられるところを行うが、進捗が遅れている旨を説明した。

### ② 松永記念館の工事について

委員から、松永記念館の工事はいたばし見聞楽に支障がないか質問があった。

これについて、事務局から、避けたいところだが、工期の関係でかぶってしまった。当日は工事を行わない予定である旨を説明した。

### ③ ボランティア制度について

委員から、ボランティア制度の有無について質問があった。

これについて、事務局から、制度はない旨を説明した。

この説明に関して、ボランティアによる資料整理について意見が出された。

これについて、事務局から活動の場の確保について課題がある旨を説明した。

### ④ 台風対策について

委員から、台風時の郷土文化館、松永記念館の対応について質問が出された。

これについて、事務局から、郷土文化館の雨漏りがあり、今後補修する。松永記念館は予報を参考に、雨戸を早めに閉めるなどの対応は行っている旨を説明した。

この説明に関係して、入館者や職員に支障はなかったか質問が出された。

これについて、事務局から、支障はなかった旨を説明した。

### (3) 議題3「博物館構想策定事業の進捗について」

このことについて、事務局から会議資料に従って概要を説明した。説明後、次のような討議がなされた。

#### ① 計画のスケジュールについて

委員より、どのくらいのスパンで計画しているか質問が出された。

これについて、事務局より、来年度基本構想、28年度に基本計画、29年度に基本設計、30年度に実施設計、31、32年度の2ヶ年で建設工事、33、34年度の2ヶ年で開館準備をして35年度に開館との予定を説明した。

#### ② 現状の博物館構想の内容について

委員より、建設予定地について質問があった。

策定委員のメンバーは人文系であるので人文系の博物館になるのか。どのくらいの規模になるのか、コンセプトはどうなるか質問があった。

このことについて、事務局より、土地も規模も決まっていない段階である。ネットワークを活用し、核、軸、ハブを整備し、機能整備を進めていく可能性がある旨を説明した。

これに関連して、委員より、特に小田原はいろいろな要素があり、収集すべきものが多い、収集の問題を配慮して欲しいと意見が出された。

### (4) 全体について

#### ① アドバイザーについて

委員より、松永記念館交流事業アドバイザー謝礼があるが、交流事業のアドバイスを得ているのかと質問があった。

このことについて、事務局から、発信力の強化や展示の企画や手法、PR方法、旅行業者の誘致の手法などをアドバイスいただいている旨を説明した。

この説明に関連して、アドバイスを受けて計画されたことが協議会上がってくるのかと質問があった。

現場で活動されている方を招聘して担当者が助言をいただき、直接に事業に反映させていくという趣旨であり、体系的な計画がつけられるということではない旨を説明した。

討議終了後、パンフレットやグッズ（クリアファイル）の説明をした後、散会した。